

未来の礎となる力の育成

学力向上推進PT (224-2931) 教職員課 (224-2958) 研修企画・支援課 (226-3512)
小中学校教育課 (224-2963) 社会教育・文化財保護課 (224-3322)
人権教育課 (224-2732) 保健体育課 (224-2973, 2969)

知識・技能、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」を育むため、一人ひとりの学習内容の理解と定着を図る取組を進めます。規範意識や自他の命の尊重、いじめを許さないといった「豊かな心」を育むため、自己肯定感を涵養するための授業づくりを広く展開していくとともに、読書に親しめる環境整備を促進し、家庭や地域と連携して社会全体で読書活動を推進します。「健やかな身体」を育むため、中学校の休日の部活動の円滑な地域連携・地域移行を進めるとともに、運動に親しむ習慣の定着と体力の向上を図ります。生涯にわたり健康で充実した生活を送っていただけるよう、健康教育や食育に取り組みます。

◇確かな学力の育成

(一部新) 学力向上推進事業【予算額: 37,681千円】

- ・みえスタディ・チェックをCBTで実施。「学習や生活等に関する質問」を実施し、授業改善や個に応じた指導を促進
- ・授業力向上アドバイザー(3名)を派遣し、若手教員等への指導・助言を実施
- ・学力向上アドバイザー(3名)を派遣し、少人数指導について教員等への指導・助言を実施

(新) 学習習慣の確立に向けた取組推進事業【予算額: 2,000千円】

- ・家庭学習等、児童生徒の学習習慣の確立に向けた取組の好事例をモデル校で構築し、成果を県内に水平展開

少人数教育推進事業【予算額: 1,409,782千円】

- ・小学校1、2年生の30人学級(下限25人)【定数40人】
- ・小学校3、4、5、6年生の35人学級【定数200人】
- ・中学校1年生の35人学級(下限なし)【定数60人、非常勤28人】
- ・中学校2年生の35人学級(下限25人)【定数50人、非常勤16人】
- ・習熟度別指導やチーム・ティーチング等の少人数指導のための教員配置【定数23人、非常勤131.5人】



◇健やかな身体の育成

みえ子どもの元気アップ部活動充実事業【予算額: 179,118千円】

- 市町の中学校における休日の部活動の地域連携・地域移行
- ・コーディネーター配置を含む運営団体・実施主体等の体制整備、指導者の確保、参加費用負担および拠点型の合同部活動等の取組について支援
- ・指導者育成のため、JSP0公認指導者資格を取得するための研修を実施



部活動指導員 対前年度
29名増(約1.13倍)

○部活動指導員の配置

- ・運動部活動指導員の配置216名(中学校173名、高校43名)
※中学校の文化部配置分35名(他事業)を含めると、計251名の配置
- ・運動部活動サポーターの派遣50名(高校)

◇豊かな心の育成

(一部新) 自己肯定感を涵養する教育推進事業【予算額: 1,450千円】

- ・モデル校およびモデル地域において効果的な授業づくりや学校づくりに向けた校内研修等の方法を検証

(一部新) 人権教育広報・研究事業【予算額: 2,119千円】

- ・すべての教職員を対象とし、部落問題への認識、個別の人権問題に関する知識理解を深めるための研修を実施
- ・個別の人権問題に関する学習促進のための動画等資料を作成

(一部新) 子どもと本をつなぐ環境整備促進事業【予算額: 9,056千円】

- ・団体や企業、学校、行政などの多様な主体が連携・協働するネットワークをコーディネートし、社会全体で読書活動を推進する気運を醸成
- ・県立図書館と連携し、県立学校で電子書籍が利活用できるよう、環境を整備



就学前教育の質向上事業【予算額: 10,532千円】

※R6年度2月補正予算含みベース

- ・幼保小の円滑な接続を進めるため、アドバイザー等を市町へ派遣
- ・公立幼稚園のICT環境整備について市町へ補助

(一部新) みえ子どもの元気アップ体力向上推進事業【予算額: 4,548千円】

- ・各学校の状況に応じた1学校1運動の推進
- ・体育指導を充実させるための非常勤講師を配置する小学校で、取り組みやすい運動を学ぶ研修会を開催

学校保健総合支援事業【予算額: 2,686千円】

- ・養護教諭の資質能力向上のため、指導・助言や業務代替を行う経験豊富な人材を派遣



学校給食・食育推進事業【予算額: 2,485千円】

- ・食育を推進するとともに、学校給食の衛生管理等の徹底や、地場産物活用の取組を実施

未来を創造し社会の担い手となる力の育成

高校教育課(224-3002)
小中学校教育課(224-2963)

変化が激しく予測困難なこれからの社会において、持続可能で豊かな未来を創る人材として活躍していけるよう、企業と連携した探究学習や平和教育や主権者教育などを通じて、社会の担い手として主体的に学びに向かう姿勢を育むとともに、技術革新等により進化する社会で求められる力を身につけるための取組を推進します。また、中学生による郷土三重の魅力英語で表現するコンテストや、高校生による外国人労働者を雇用している県内企業訪問など、国際社会の場で活躍ができる人材を育成します。

◇キャリア教育の推進

(一部新) 未来へつなぐキャリア教育推進事業【予算額 29,095千円】

- ・進学希望者が多い普通科で学ぶ高校生が、将来の生き方や職業について考えを深める契機となるよう、県内企業の持つ技術やノウハウを体験できる企業展を開催
- ・高校生が県内企業で活躍する職業人から話を伺う機会や、企業を訪問する機会を拡充し、企業と連携した探究学習を推進



◇グローバル教育の推進

郷土教育

郷土を題材とした学習活動推進事業【予算額 4,847千円】

- ・実践校における課題解決型の協働的な学習、地域で活躍する人びとの魅力に触れる機会の創出
- ・中学生が郷土三重の魅力英語で表現するコンテストや、外国の同年代の生徒と、英語で実践的なコミュニケーションを実施



◇新たな価値を創り出す力の育成

(一部新) 世界へはばたく高校生育成支援事業【予算額 28,013千円】
(※R6年度2月補正予算含みベース)

- ・就職後に多様な人々と協働しリーダーシップを発揮できるよう、外国人労働者を雇用している企業への訪問や海外事務所での就労体験を実施
- ・AIを英語の授業等で効果的に活用した授業モデルを構築
- ・三重県高等学校科学オリンピック大会を開催



地域とつなぐ職業教育充実支援事業【予算額 108,937千円】

職業教育 ・DX人材の育成



- ・福祉系高校4校において、福祉関係団体等と連携した専門的な学習、介護ロボットやICTを活用した最先端の介護実習を合同実施
- ・職業系高校の老朽化している実習設備の更新

高等学校学力向上推進事業【予算額 38,548千円】

生成AI

- ・パイロット校で学術的知見を有する事業者や研究者等と連携し、生成AIを活用した授業を実践

◇未来を切り拓く力の育成

平和教育・主権者教育

(一部新) 次代を担う社会の担い手育成支援事業
【予算額 5,910千円】

- ・高校生が戦争と平和に関する講演や大学生を交えた意見交換、紛争地域に暮らす同年代の海外の学生等との交流などのワークショップを実施
- ・主権者モデル校における実践的な学習や、身近な社会の課題をテーマに話し合うワークショップを実施



特別支援教育の推進

特別支援教育課（224-2961） 学校経理・施設課（224-2955）

特別な支援を必要とする子どもたちが一貫した支援を受けられるよう、パーソナルファイル等を活用して支援情報の確実な引継ぎを進めます。また、特別支援学校において、豊かな人間性を育むため小中学校との交流および共同学習を進めるとともに、発達段階に応じた計画的・組織的なキャリア教育や企業経験豊かなサポーター等の活用により、生徒の希望する進路を実現します。また、医療的ケアが必要な子どもたちの学習を保障し、通学にかかる保護者の負担をさらに軽減するため、通学支援を拡充します。さらに、特別支援学校の狭隘化や老朽化に対応するため、移転や増築に向けた取組を進めます。

◇特別支援教育の推進

早期からの一貫した教育支援体制整備事業 【予算額 21,387千円】

- ・市町教育委員会と連携した就学支援
- ・パーソナルファイル等の活用促進と、支援情報の円滑な引継ぎ
- ・特別支援学校に在籍する外国人児童生徒等への支援
（通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員を配置）
- ・発達障がい支援員4名による高等学校への巡回相談
- ・通級による指導担当教員等の専門性の向上
- ・高等学校での通級による指導の充実と実施校の拡充
- ・教職員等への研修の実施



特別支援学校メディカル・サポート事業 【予算額 64,348千円】

- 医療的ケアを安全に実施するための体制を整備
- ・実施校：特別支援学校10校
- ・看護師免許を有する職員と教職員が連携して医療的ケアを実施
- ・教職員の専門性向上のための研修会実施
- ・医療的ケアを必要とする子どもたちの学習を保障し、保護者の負担軽減のため、登校時に看護師が福祉車両等に同乗し、医療的ケアを行う通学支援を拡充

◇進路希望の実現

特別支援学校就労推進事業 【予算額 7,153千円】

- サポーター等を活用した支援
- ・キャリア教育サポーター3名による、生徒一人ひとりに合った業種・業務と支援方法を企業に提案する職場開拓
- ・短時間就労等、多様な働き方ができる職場開拓・多様な働き方支援員1名による、テレワークや短時間勤務等の新たな勤務形態における福祉サービスの併用等の支援

◇施設の狭隘化・老朽化等への対応

特別支援学校施設建築費

【予算額 2,960,399千円】※R6年度2月補正予算含みベース

- 盲学校・聾学校の校舎等建築
- ・城山特別支援学校の隣地へ移転するため、校舎および共同調理場建築工事や木材調達等を実施
- 松阪あゆみ特別支援学校の校舎増築工事



◇スクールバスの整備

特別支援学校スクールバス整備事業

【予算額 104,587千円】

- ・老朽化に伴う車両更新および在籍する子どもの数の増加に伴う増車（3台）



いじめや暴力のない学びの場づくり

小中学校教育課 (224-2963) 生徒指導課 (224-2332, 2372)
 研修企画・支援課 (226-3516) 研修推進課 (226-3571)

道徳教育や人権教育など教育活動全体を通じて、子どもたちに「いじめをしない、させない心」や社会性を育むことを通じて、いじめや暴力行為の未然防止に取り組みます。学校内外の専門人材も活用しながら、子どもたちのささいな変化を見逃さず、積極的ないじめの認知を進めるとともに、子どもの意見表明を支援する環境づくりに取り組むことで、いじめ事案への迅速かつ適切な対応を進めます。

道徳教育総合支援事業

【予算額 2,511千円】

○道徳教育の充実

- ・「三重県道徳教育推進会議」を開催
- ・道徳教育アドバイザーを活用した「考え、議論する道徳」の授業への指導・助言



【一部新】いじめ対策推進事業 【予算額 28,139千円】

○「いじめをしない、させない心」の育成

- ・小学校高学年の児童が社会性や規範意識を高め、いじめをなくそうとする行動につながられるよう、弁護士による出前授業や動画教材を活用し、すべての小学校でいじめ予防授業を実施

○いじめ対策アドバイザー、いじめ問題対応サポーターの任用

- ・保護者や県立学校からの相談に応じる「いじめ問題対応サポーター」を任用
- ・複雑ないじめ事案や認知へ至っていない事案について、学校の対応の検証や効果的な対応策を助言する「いじめ対策アドバイザー」を県立学校に派遣

○いじめ対応情報管理システムの運用

- ・いじめの迅速な認知と確実な対応のため、学校が認知したいじめの内容や児童生徒の状況、対応状況等の情報を学校とその学校を所管する教育委員会が遅滞なく共有

○「子どもアドボカシー」の理解向上

- ・子どもの意見表明を支援する環境が整えられるよう、教職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等が「子どもアドボカシー」の理解を深め、子どもの権利や「子どもアドボカシー」について学ぶ動画教材や資料を作成



スクールカウンセラー等活用事業

【予算額 505,485千円】

○スクールカウンセラー（臨床心理士等）の配置拡充

- ・全中学校区（150中学校区）
児童生徒数、小学校数、不登校児童生徒数の多い中学校区への配置時間を増
- ・全県立学校（高等学校57校、特別支援学校18校、夜間中学1校）
一人あたりの時間数が少ない学校の配置時間を増
令和7年度新設の高等学校1校と夜間中学1校に新たに配置
- ・全教育支援センター（市町：22か所（他事業分も含む）、県立：1か所）
市町：令和7年度新設の1か所に新たに配置

○スクールソーシャルワーカー（社会福祉士等）の配置拡充

- ・小中学校（29市町に配置。学校数が多い市町は複数中学校区を拠点に活動）
1校あたりの配置時間が少ない市町への配置拡充
- ・県立学校（高等学校28校、特別支援学校3校を拠点に活動、夜間中学1校）
高等学校4校と令和7年度新設の夜間中学1校に新たに配置
- ・全教育支援センター（市町：22か所（他事業分も含む）、県立：1か所）
市町：令和7年度新設の1か所に新たに配置



【スクールカウンセラー】

R7:396,548千円（各事業合計）
 対前年度予算比：+32,237千円/+8.8%
 ※R2予算比：+156,366千円/+65.1%

【スクールソーシャルワーカー】

R7:116,496千円（各事業合計）
 対前年予算比：+3,413千円/+3.0%
 ※R2予算比：+73,724千円/+172.4%（約2.7倍）

【教育相談員】

R7:24,398千円

教育相談事業（一部）【予算額 29,345千円】 （SNSを活用した相談事業、いじめ電話相談事業）

- 多言語でも相談できる「子どもSNS相談みえ」や24時間体制のいじめ電話相談を実施



いじめ対応に係る教職員研修 （教職員研修事業、教育相談事業の一部）

【予算額 286千円】

- いじめの定義の確実な理解や、解消に向けた組織的対応等、対応力向上を図る法定・悉皆研修を実施
- いじめの未然防止について学ぶ専門研修を実施

誰もが安心して学べる教育の推進

生徒指導課 (213-6611, 224-2372, 2332) 教育財務課 (224-2940) 小中学校教育課 (224-2963)
高校教育課 (224-3002) 特別支援教育課 (224-2961) 教育総務課 (224-3301)

学校への支援や相談体制、関係機関等との連携を充実するとともに、不登校児童生徒が学びたいと思ったときに学べる環境を整えるため、多様な学びの場の確保に向けた取組を進めます。外国人児童生徒が自己実現を果たし、地域社会で生きていく力を身につけられるよう、日本語指導や学習支援を充実します。義務教育段階の学び直しを行う県立夜間中学については、開校後の学習環境の整備や学校運営を進めます。あわせて、子どもたちが災害時に自分の命を守る力を身につけられるよう、防災教育に取り組めます。

◇不登校児童生徒への支援

不登校児童生徒が学校内外で学びを継続!

(新) 校内教育支援センター環境充実事業 【予算額 25,575千円】

○学校へ行くことはできるが、教室に入れられないなどの兆候がみられる児童生徒や、不登校から学校復帰する段階にある児童生徒が安心して学習、相談支援を受けることができるようにするため、市町教育委員会が行う校内教育支援センターへの指導員配置を支援



学校外での多様な学びの場の支援事業 【予算額 6,075千円】

- フリースクール等で行う不登校児童生徒の体験学習等の費用を支援
- フリースクール等で学ぶ不登校児童生徒について、経済的な理由により支援が必要な家庭に対して利用料の一部を補助

不登校対策事業(一部) 【予算額 55,572千円】

- 各学校への支援、多様な活動や交流の場の提供、相談体制の充実、関係機関や民間団体との連携を推進
- 市町の教育支援センターにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、専門的な支援や訪問型支援を継続
- 県立教育支援センターを核として、高校段階の不登校生徒や高校中途退学者の多様な活動やオンラインを含めた交流の場の提供、学習支援や自立支援、カウンセリングを実施

◇外国人児童生徒教育の推進

社会的自立をめざす外国人生徒支援事業 【予算額 21,546千円】

○学習支援や進路指導を行う外国人生徒支援専門員4名、日本語指導アドバイザー2名を県立学校に配置

未来へつなぐキャリア教育推進事業(一部)(再掲) 【予算額 4,941千円】

- 外国人生徒に相談や求人開拓等の重点支援を行う就職実現コーディネーター3名を配置
- 外国人生徒が日本での働き方や上級学校への進学についての理解を深める説明会を実施

特別支援学校外国人児童生徒の学校生活充実事業 (早期からの一貫した教育支援体制整備事業(一部)(再掲)) 【予算額 3,597千円】

○通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員1名を配置

多文化共生社会のための外国人児童生徒教育推進事業 【予算額 31,498千円】

- 外国人生徒の受け入れや日本語指導・適応指導を行う市町へ補助
- 学習支援等を行う外国人児童生徒巡回相談員を増員、オンラインを活用した日本語指導を実施

◇学びの継続への支援

高校生等教育費負担軽減事業 【予算額 3,350,639千円】※R6年度2月補正予算含みベース

○教育費負担の軽減のため、就学支援金や奨学給付金等を支給

地域と学校の連携・協働体制構築事業(一部) 【予算額 8,296千円】

○地域未来塾など放課後等に補充的な学習支援を行う市町へ補助

スクールカウンセラー等活用事業(再掲) 【予算額 505,485千円】

○カウンセラーやソーシャルワーカーを拡充し、福祉等の関係機関と連携した支援を実施

◇県立夜間中学の円滑な運営

(新) 中学校運営費 【予算額 29,544千円】

○令和7年4月開校「県立みえ四葉ヶ咲中学校」の学習環境の整備や学校運営

夜間中学体験教室運営事業 【予算額 2,036千円】

○北勢地域で、引き続き夜間中学体験教室を実施



◇防災教育の推進

学校防災推進事業 【予算額 14,620千円】

- 防災ノートを活用した学習
- 体験型防災学習等の支援
- 学校防災リーダー等研修



◇通学路の安全確保

学校安全推進事業 【予算額 2,993千円】

- バイシクルサミットの開催
- 通学路の安全点検等の実施

学びを支える教育環境の整備

研修推進課 (226-3571) 研修企画・支援課 (226-3516) 教職員課 (224-2959) 教育総務課 (224-3008, 3173) 高校教育課 (224-3002) 小中学校教育課 (224-2963) 学校総務・施設課 (224-2955) 教育政策課 (224-2951) 社会教育・文化財保護課 (224-3322, 3328)

教職員の資質向上を図るため、経験年数や職種に応じた研修を計画的に実施するとともに、着任2~3年目の教員が自ら学べるオンデマンド研修用コンテンツ作成等を実施します。喫緊の課題である教員不足に対応するため、教職の魅力発信に幅広く取り組みます。県内の高校で学ぶ全ての生徒が希望する進路を実現できるようにするため、遠隔授業システムの構築に向けた準備に取り組みます。学校・家庭・地域が一体となった教育活動を進めるため、コミュニティ・スクールの導入や充実に向けた取組を支援します。県立高等学校活性化計画に基づき、人口減少に対応した取組や、各校の特性を生かした特色化・魅力化の取組を進めるとともに、地域の高等学校活性化推進協議会において、高等学校の学びと配置のあり方について丁寧に協議を進めます。三重県立学校施設長寿命化計画に基づく老朽化対策や体育館への空調設備の導入を進めます。地域の中で子どもたちを健やかに育む環境づくりを推進するとともに、文化財を将来にわたって守り伝え、活用するための取組を進めます。

◇教職員の資質向上

(一部新) 教職員研修事業

【予算額 50,593千円】



- ・着任2~3年目の教員が課題の解決方法を見出し、教職の魅力ややりがいを実感することができるよう、自ら学べるオンデマンド研修用コンテンツを作成
- ・教職員の児童生徒への性暴力防止に向け、児童生徒が安心して過ごせる学校づくりを進めるためのオンデマンド教材を作成

(一部新) 自己肯定感を涵養する教育推進事業(再掲)

【予算額 1,450千円】

- ・モデル校およびモデル地域において効果的な授業づくりや学校づくりに向けた校内研修等の方法を検証

◇教職の魅力発信と働き方改革の推進

(新) 教員不足解消に向けた緊急対策事業

【予算額 3,708千円】

- ・移住促進課の実施する移住フェアや、民間事業者の実施する転職イベントに出展し、教職の魅力を発信
- ・県内外の大学生、県内高校生向け就職ガイダンス等へ出展し、教職の魅力を発信
- ・教員免許状取得に関する説明会を開催
- ・生成AIライセンスを希望する県立学校等に導入し、活用方法について実証・記録・共有し、業務改善を推進

学校における働き方改革推進事業【予算額 428,578千円】

- ・引き続きすべての公立学校にスクール・サポート・スタッフを配置
- ・教頭マネジメント支援員を小中学校(大規模校9校程度)に配置

◇教育環境の整備

(新) 多様な学習コンテンツを提供する

遠隔授業システム整備事業【予算額 63,436千円】

- ・多様かつ専門性の高い教科・科目の授業等を遠隔で配信するセンターの設置準備

(新) 県立学校における相談対応充実事業

【予算額 24,451千円】

- ・県立学校における相談や要望等への対応を充実させるため、電話録音機能を整備

教育課程等研究支援事業【予算額 4,387,838千円】

- ・学習指導要領に即した授業改善のための研修等
- ・公立小中学校および特別支援学校小中学部の1人1台端末の計画的な更新を支援

校舎その他建築費【予算額 3,762,119千円】

※R6年度2月補正含みベース

- ・長寿命化計画に基づく県立高校の老朽化対策を実施
- ※長寿命化改修11棟、トイレ改修工事6校

◇文化財の保存・活用・継承

世界遺産熊野参詣道・無形文化遺産保存管理推進費

【予算額 1,902千円】

- ・文化庁・近隣県・関係市町等と連携した取組の実施
- ・市町が実施する追加登録候補資産の学術調査への技術的支援

(一部新) 埋蔵文化財センター管理運営費

【予算額 179,189千円】

- ・出土品の適切な保管のための恒温恒湿収蔵庫や多機能トイレの整備、体験イベント・出前授業等の実施

◇高校の特色化・魅力化

教育改革推進事業【予算額 4,321千円】

- ・地域協議会を開催し、各地域における高校の活性化や、今後の学びと配置のあり方を協議

高等学校活性化推進事業【予算額 38,300千円】

- ・令和7年4月に開校する熊野青藍高等学校で、木本校舎と紀南校舎の2校舎が一体となった学習活動を実施

◇地域とともにある学校づくり

地域と学校の連携・協働体制構築事業(一部再掲)

【予算額 12,514千円】

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の導入や充実を図るための指導・助言

◇社会教育の推進と地域の教育力の向上

社会教育推進体制整備事業【予算額 6,919千円】

- ・地域と学校をつなぐコーディネーター資質向上講座を実施
- ・博物館法の改正に伴う審査登録や社会教育団体が開催する全国大会を支援

鈴鹿青少年センター費【予算額 136,183千円】

- ・PFI事業契約に基づく質の高い公共サービスを提供

未来へ伝えるみえのお祭りアーカイブ事業

【予算額 3,143千円】



- ・継承支援のため、祭り等の無形民俗文化財映像記録の作成や既存映像記録のデジタル化を行い、ホームページ等で公開
- ・「みえ祭り探検隊」として、子どもたちに祭りの講演会や体験イベントを実施